

中学校・総合的な学習の時間

1 教育課程の改善のポイント

- 探究的な学習としての充実を図る。
- 学校間の取組状況の違いと学校段階間の取組の重複の改善を図る。
- 体験活動と言語活動の充実を図る。

2 全面実施に向けて取組が求められること

(1) 移行期間における指導のポイント

ア 全面実施を見通して指導計画（全体計画・年間指導計画）を見直しましょう。

・移行期間中の標準授業時数は、以下のとおりです。

	第1学年		第2学年		第3学年	
	総合	選択	総合	選択	総合	選択
移行期間 【平成22年】	50～65	0～15	70～105	15～50	70～130 合計が175時間となる	45～105
移行期間 【平成23年】	合計が65時間となる		合計が120時間となる		70～130 合計が140時間となる	10～70
全面実施 【平成24年】	50	—	70	—	70	—

(2) 適切な指導計画と単元構成の工夫

ア 全体計画と年間指導計画では、以下の7つの要素を示しましょう。 【資料1】

- | | | |
|---------------------|---|------------------------------|
| ①「目標」 | } | 全体計画において必須の要件 |
| ②「育てようとする資質や能力及び態度」 | | |
| ③「内容」（学習対象と学習事項） | | |
| ④「学習活動」 | } | 全体計画において
基本的な内容や方針を概括的に示す |
| ⑤「指導方法」 | | |
| ⑥「学習の評価」 | | |
| ⑦「指導体制」 | | |

イ 学習活動が「探究的な学習」として充実したものとなるよう、年間指導計画及び単元計画を見直しましょう。

・「探究的な学習」とは、以下のような学習活動です。

- 問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動
- 自分で課題を設定して、その課題を自ら解決していく学習活動

・各教科等との関連を見通した年間指導計画（単元配列表）を作成しましょう。【資料2】

ウ 生徒の学習を一層充実したものにするために、以下の点を参考にして単元計画を見直しましょう。【資料3】

- ・体験活動の目的を明確にし、適切に位置付けましょう。

①課題設定のための情報収集としての体験

課題設定につながる気付きや疑問をもてるよう、生徒がこれまでの考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じられるような体験活動や、対象への「あこがれ」や「可能性」を感じられるような体験活動を設定しましょう。

②課題解決に向けた調査活動としての体験

数値化した情報や言語化した情報、感覚的な情報を収集できるような体験活動を設定しましょう。その際、何のための調査活動なのかを自覚できるようにしましょう。また、収集した情報を適切な方法で蓄積し、その後の課題解決に生かせるようにしましょう。

③課題にかかわる実践活動としての体験

課題を追究する中で得た結論を実践する活動を設定し、追究の成果を実感できるようにしましょう。

- ・他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視しましょう。

①互いに教え合い学び合う活動

友達と教え合ったり話し合ったりする活動を設定し、多様な情報を収集したり、異なる視点から検討したりできるようにしましょう。

②地域の人との意見交換や交流活動

外部人材等と交流する場を設定して、多様な考えをもつ他者とかかわれるようにしましょう。また、交流する場では、相手意識をもって活動できるようにしましょう。

- ・言語活動を重視し、適切に位置付けましょう。

①情報を整理したり分析したりして考える活動

何をどのように考えさせたいのかを意識して、比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けして考える、因果関係から考える、などの活動を設定し、収集した情報を言語によって整理・分析できるようにしましょう。

②整理・分析して考えたことをまとめたり表現したりして自分の考えを深める活動

相手意識（だれに伝えるのか）や目的意識（何のためにまとめるのか）を自覚して、適切にまとめたり表現したりする活動を設定し、生徒が情報を再構成し、自分の考えや新たな課題を自覚できるようにしましょう。

- ・単元の導入から終末に向けて、生徒の「望ましい変容の姿」を具体的に想定し、生徒の目線で単元を構成しましょう。

- ・単元の各段階で「望ましい変容の姿」を表出させるための学習活動や支援を考えましょう。この「望ましい変容の姿」は、生徒の活動の様子をみとるための視点にもなります。

エ 接続する小学校との情報交換を行い、取組状況の差や取組の重複がないかを確認しましょう。

- ・年間指導計画や単元計画を交換したり、中学校区単位で連絡会を開催して情報交換をしたりして、各学校の取組状況について確認し合ひましょう。

(3) その他

ア 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動を行うために、校内の推進体制の整備や教職員

の研修を行いましょう。

- ・校内推進委員会など、教職員の共通理解や連携強化のための組織を整備しましょう。
- ・年間の研修計画の中に、総合的な学習の時間のための校内研修を位置付けましょう。
- ・ワークショップ型の研修を取り入れ、全教職員が協力して指導計画や単元計画を作成しましょう。
- ・教師の専門性を積極的に生かし、それぞれの学習活動の特性に応じた指導体制の工夫を図りましょう。

イ 地域の素材や地域の学習環境を積極的に活用しましょう。

- ・保護者や地域の人々、専門家をはじめとした外部人材や社会教育施設や社会教育関係団体等と協力して学習を進められるよう、人材・施設バンクを作成しましょう。
- ・外部連携のためのコーディネーター役の教師を校内組織に位置付けましょう。
- ・授業のねらいを明確にし、連携先との打合せを十分に行いましょう。

【参考資料】

- 全体計画例 **【資料1】**
- 総合的な学習の時間と各教科等の単元を関連づけた年間指導計画例 **【資料2】**
- 単元計画例
富岡市立東中学校1年『『やりがい』を探ろう』 **【資料3】**

【資料1】全体計画例

平成22年度総合的な学習の時間

△△△タイム

全体計画

〇〇市立〇〇中学校

日本国憲法、教育基本法、学校教育法、
群馬県教育振興計画、〇〇市学校教育ビジョン
〇〇市の学校教育…等
生きる力の育成

地域、生徒の実態
○地域の実態
・学校教育に対する理解は深く、学校への期待が大きい。
・PTA活動等にも協力的である。
…等
○生徒の実態
・明るく素直な生徒が多い。
・自分の考えを表現することや、自らの意思で主体的に行動することに関して課題がある。

〇〇中学校学校教育目標
「自ら考え、判断し、目標に向かい
着実に努力する生徒の育成」
・たくましく
・かしこく
・心豊かに

保護者、教師の願い
○保護者の願い
・学習に積極的に取り組み、最後までやり抜く強い意志のある子
・思いやりの心、感謝の心のもてる子
○教師の願い
・たくましい体力と気力ある生徒
・自主的に学習に取り組む生徒
・思いやりの心のある生徒

小学校との連携
○校区内の小学校との連携
・学習内容や方針
・児童、生徒の実態
・活動計画

総合的な学習の時間の目標
自ら課題解決に向けて、自分の生活と地域の人々や自然とのかかわりについての探究的な学習を通して、学び方やものの考え方を身に付け、見いだされた課題や問題の解決に主体的に、かつ協同的に取り組み、よりよい自己の生き方を考えることができるようにする。
目標の5要素をすべて含ませる

社会の要請
・いじめや不登校などの問題行動の解消
・国際化、情報化など社会の変化への対応

育てようとする資質や能力及び態度
① 自ら課題を設定し、方法や手順を考え、見通しをもって解決し、自分らしく生活することができる。
② 自らの生活の在り方を見直し、自分の将来を考え、夢や希望を持つことができる。
③ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、協同して解決することができる。
学校が育てようとする生徒の資質や能力及び態度を具体的に示す

目標の実現にふさわしい内容（学習課題、学習対象、学習事項）を示す			
学年	第2学年		第3学年
単元名	「地域を再発見しよう」		「人にやさしい街を創ろう」
学習対象	・地域の自然や歴史の特徴 ・地域で社会貢献している人 ・地域の年中行事		・地域の公共施設、福祉施設 ・校区に暮らす高齢者とその暮らしを支える仕組みと人 ・地域のボランティア活動
学習事項	・地域伝統の特徴と歴史的背景 ・環境保全やよりよい環境の創造を目指した地域の取り組み		・地域の人々が幸せに暮らせるやさしい街づくりの在り方 ・やさしい街づくりのための課題、自分達ができること

生徒が探究的にかかわりを深める「ひと」「もの」「こと」を示したもの

個々の学習対象とのかかわりをおとして、生徒に「どんなことを学んでほしいか」について、さらに分析的に示したもの

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
・全学年を通し、「地域」を主テーマとした探究的な学習に取り組む。 ・各自テーマを設定するとともに、活動は学級の班で取り組む ・体験活動から課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の流れを単元とし、取り組む。	・生徒の課題意識を保持させたり、更新させたりする指導の工夫 ・体験活動の重視 ・協同的な学習活動の重視 ・教科で身につけた学力の活用 ・言語活動の充実	・校内推進委員会及び総合的な学習の時間主任を中心とした総合的な学習の時間部会での連絡、調整 ・企画委員会での連絡調整 ・全職員による指導体制の確立 ・司書、SSVとの連携	・ポートフォリオを活用した評価の重視 ・個人内評価の重視 ・指導と評価の一体化 ・発表会等を利用した地域からの評価 ・学期末、学年末の指導計画の評価と修正 ・授業分析による評価

各教科との関連
・調べ学習における「課題設定の仕方」「調査」「まとめ」「発表」等を国語、社会、理科、技術・家庭科、外国語科等でも実施する。

地域との連携
・公共施設（図書館、博物館、歴史資料館、公民館、コミュニティセンター、市役所等）との連携
・市内高校、中学校との情報交換
・地域への総合的な学習の時間の趣旨説明と発表会の公開

【資料2】 総合的な学習の時間と各教科等の単元を関連づけた年間指導計画例

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月		
総合的な学習の時間(70)	「地域の働く人から学ぼう」(50) ○地域で働く人をとおして、勤労の喜び、厳しさを知る。 ○職業調べや職場体験学習、保護者のアンケートをとおして、働くことの意義や職業に対しての考えを深めることができる。 ○体験活動をとおして、見たり、聞いたり、調べたりしたことを自分の考えとして整理・分析し、お世話になった人に伝える。					「地域の伝統文化から学ぼう」 ○地域の文化の継承を目指した取り組みをとおして、地域の人の願いや想いを知る。				
特別活動	○講演会 ・生き方について ○グループ協議 ・理想の職業人		○自己理解 「親の願い」 「エゴグラム」		○学級活動 「望ましい集団におけるルールとは」	○学級活動 ・自然体験活動行事への取り組み ・集団づくり				
道徳	○心のノート p54「いろいろな立場があり考えがある」	○心のノート p38「考えよう『働く』ということ」	○心のノート p22「自分のことは自分で決めたい」	○心のノート p38「礼儀知らずは恥知らず」	○心のノート p82「集団、そして一人一人が輝くために」	○心のノート p86「縛られたくないのはみんな同じ」	○心のノート p90「自分だけがよければいい」			
国語(140)	「私の出会い」 ねらい：話したり聞き取ったりする。	「心を伝える」 自分の立場や考えを明確にして、文章を書く。	「古くて新しい路面電車」再評価の提起を受け社会の新しい在り方に目を向ける	「人に優しい町づくり」必要な情報を集めて、自分の表現に役立てる。	ガイアの知性	「報告を正確に」 根拠を明らかにし、説得力のある文章を書く。	「夏の葬列」 様々な場面での人間の姿を捉える。	「永日小品」 近代文学の魅力にふれる。	立場を変えて書く：異なった立場から物事を見ることの効果を理解する。	活用のある自立語
社会(140)	様々な地域の調査 国々の特徴を読み取り、比較するなどして理解を深め、地理的な見方や考え方を育てる。		地域学習の整理と価値付け	世界と比べてみた日本 これまでの学習で身につけた知識や技能を使い、日本とはどういう国かを考えてみて自分なりの見方や意見を述べる。			近代日本の歩みと国際社会 国際社会と深くかかわることで、近代日本が形成され、現代に繋がっていることを学ぶ。			
音楽(35)	「イメージを生かして表現しよう」 ・夢の世界を ・夏の思い出	「時代と音楽」 伝統音楽	「音楽の発展」 時代と共に音楽の様式やスタイル、響きが変わったことに気づく	「声による表現」 音声とリズムのかかわりをとらえラブミュージックをつくる	「合唱の響き」 混声合唱の響きを味わわせ、歌詞の内容にふさわしい表現を工夫する。		「総合芸術に親しむ」 ・歌劇アイダ 楽曲の構成について理解し、独特な音色と構成の効果を味わわせる。			
美術(35)	いろいろな描画技法 いろいろな描画技法を体験し、今後の表現の手段として役立てる。	「イラストレーション」 心象風景をイメージとして表現する。 イメージにあった技法や表現方法を工夫して効果的に美しく表現する。			ミッシャとガレ アールヌーボーの様式を用いた家具や装飾品を鑑賞して、生活を美しく豊かにしていこうとする気持ちを持つ。		「ランプシェードをつくろう」 使う場所や演出する場面などの用途に合わせてデザインし、手順や方法を良く練ってつくる。			
英語(140)	どんどん英語を使ってみよう 英語に慣れ、相手の意向を理解する。	Program1 必要に応じて資料や辞書を活用できる。	Program2 異文化を理解しようとする態度を育成し、相手と交流できる。	Program3 情報を整理し、英語で情報交換を行う。	Program4 登場考えを、生き方を理解できる。	Program5 日米の認識の違いから、考え方の違いを理解する。。	Program6 心情や場面を考えながら音読できる。	Program7 対話を聞いたり読んだりして要点を理解できる	Program8 英語で表現できる。	Program9 意見や情報を整理し、英語で表現できる。

【資料3】

1 学年「総合的な学習の時間」単元指導計画 「『やりがい』を探ろう」(全40時間)

評価規準	(活動への関心・意欲・態度) ・地域で社会貢献している人達の活動に関心をもち、疑問や興味を抱いたことについて調査したり、考察したりして、課題を解決しようと粘り強く取り組もうとしている。 (総合的な思考・判断) ・地域の方々の社会貢献活動の取り組みについて知り、その価値に共感しながら、自分を振り返り、将来を見通した考え方ができる。 (活動にかかわる技能・表現) ・地域の人や友達から課題解決のための適切な情報を収集・選択したり、追究したことについて相手を意識してわかりやすくまとめたりすることができる。 (知識を活用する能力) ・地域で社会貢献活動をしている方々の想いや「やりがい」について理解することができる。							
過程	時数	主な学習活動	評価の観点				評価項目〔評価方法は観察、ワークシート〕	支援及び留意点
			関	思	技	知		
つかかむ	1	○1年生の総合的な学習の時間のねらいを理解し、進め方や調査の方法、発表の仕方を確認する。	○			○	・ねらいを理解し、学習の進め方や発表の仕方など、これからの見通しをもつことができる。	○事前アンケートの内容を入れて、これからの学習についてわかりやすく説明し、今後の活動の見通しをもてるようにする。
	3	○「やりがい」という言葉の意味について自分なりに考えをまとめる。		○	○		・今までの体験から「やりがい」について考えをまとめ、自分の言葉で説明できる。	○地域の様子や自分の経験を思い出し、どんな人が、どのような活動をしているか予想させる。
	5	○地域の中でどんな人がやりがいを持っているかを考える。		○			・いくつかの例を班で相談し類型化し、理由を考えることができる。	○生き方アンケートをもとにして地域で活躍する人からやりがいをもって暮している人を班で話し合わせ考える。
	7	○東中1年の学習で取り組むやりがいについての考え方を知る。				○	・大きく分けると職業的なこととそれ以外のことに分かれることを理解している。	○1年生のやりがいにあった方に依頼するとともに、こちらの意図を話してもらう。
	8	○地域で活躍している人の様子を知る。 ・講演会Ⅰ：保護司 ・講演会Ⅱ：福祉タクシー	○			○	・講師の仕事や役割、人となりを理解することができる。 ・講演会の話から感想や疑問を持つことができる、次の課題を設定できる。	○活動内容を話してもらい、その中から活動の意図を理解させたい。 ○講演会のまとめを活用し、新たに課題を見つめるような発問を投げかけ、次の調査活動に進ませる。
	10	○講演会を振り返る。		○			・なぜ、取り組むのか自分の考えを持つことができる。	
追	12	○地域で社会貢献している人達の様子を知り、疑問や関心を抱いたことについてクラスで意見交換する。	○	○			・各自が抱いた疑問や関心をもとに、調べたい団体や個人について決めることができる。(個人・班)	○生涯学習のしおりや社会福祉協議会の資料を通して、地域の活動を知らせる。また、部活動やスポーツ関係の指導者も含めて考えさせる。

究 す る	14	○質問事項を考える ○連絡のとり方や質問の仕方を練習する。 ○電話連絡をする。		○		・同じような課題を設定した友達と質問事項を相談して考えることができる。 ・電話の仕方や話し方についてお互いに練習することができる。	○どんな人や団体であるかをみんなに伝えられるような質問にする。 ○「やりがい」だけでなく、理解を深めるためにも、活動全般について聞き取りを行わせる。 ○各クラスの傾向を事前に洗い出し、重複しないようにする。 ○話を聞き取りながら、必要に応じてメモをとったり、質問したりするよう教科で学習したことを生かすよう助言する。
	17	○聞き取り調査をする。 (各班2カ所)	○		○	・安全に気をつけて訪問し聞き取り調査をすることができる。	○話を聞き取りながら、必要に応じてメモをとったり、質問したりするよう教科で学習したことを生かすよう助言する。
	20	○礼状の作成					
ま と め る	21	○調査結果について整理をする。	○		○	・結果について自分なりの視点で整理・考察できる。	○活動内容ごとに聞き取った内容について、共通点や特徴がないか班で整理・分析を行う。
	23	○調査結果交流会の準備をする。			○	・発表原稿を考えるとともに役割分担して、発表の準備をする。	○A4にまとめて冊子にする。冊子は印刷して生徒に配布し、各自が収集した情報を学年全員で共有できるようにする。
	26	○交流会をする。	○		○	・どんな活動をしているのかということを中心に発表することができる。	○交流会で出された質問や疑問について、今後の活動の参考にさせていく。 ○発表会の後、新たな疑問や課題を持てるための発問を投げかける。
広 げ る	29	○「お金や自分の時間よりも大切なものは何か」を考える。		○		・他者の意見と自分の意見を融合させながら「やりがい」について考え発表することができる。	○「お金や自分の時間以上に大切にしているものは何か」という課題を提示し、班で意見交換を行う。
	31	○新たな疑問の聞き取り調査を行い、まとめる。			○	・調査した個人や団体を訪問し、前時に考えたものを伝えて聞き取りを行うことができる。	○各自が調査した地域の人はどんなことを大切にしているか意見交換させる。
	36	○聞き取りしたことについて意見交換会をする。			○	・訪問して聞いてきたことを発表し、意見交換ができる。	○ふれあった方々に共通する点や個々の方の特別な点に気づき、【『やりがい』とは何か】についてまとめさせる。
	40	○よりよく生きるための自分の考えをまとめるとともに、1年間の活動について自己評価を行う。		○		・自分の将来をよりよく生きようとする考えをまとめることができる。	○社会貢献をしている人達には共通した想いがあることに気付かせたい。 ○生徒の1年間の努力を認め、各自の反省点については具体的な助言をして活動の成果を来年度につなげる。